

66年目の鎮魂の夏！

1945年8月6日午前8時15分 広島市に原子爆弾投下
1945年8月9日午前11時2分 長崎市に原子爆弾投下
1945年8月、広島と長崎に2つの原子爆弾が投下されて今年で66年目の夏がやってきました。

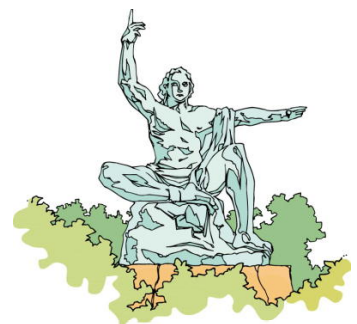
66年前、アメリカによって広島と長崎に投下された「ピカドン(原子爆弾)」は、熱線、爆風、放射線の三つのエネルギーによって、ほぼ一瞬のうちに、戦闘員・非戦闘員・一般市民の区別なしに、無差別な殺戮と大量の破壊を引き起こし、投下された年の年末までだけでも広島・長崎合わせて20万人以上の人々が死亡しました。その後も火傷の後遺症による障害や胎内被曝した出生児の死亡率の上昇、放射能の影響で白血病や甲状腺癌の増加など、いわゆる原爆症が多くの人々に見られ、多くの人々が死亡しました。原爆症は、10年、20年経った後に発症することも少なくないそうで、60年以上経った現在でも、新たに発症するケースが見られるそうです。半世紀以上経っても人々に影響し続けるほど原子爆弾は恐ろしい兵器であり、まさしく悪魔の兵器と言えます。

No more 広島！ No more 長崎！ No more 福島！

世界で唯一の被爆国の日本。

放射能の危険性・恐ろしさを知っている日本が、3月1日に発生した東日本大震災により福島原発事故を起こし、現在もなお世界へ放射能をまき散らしています。

毎年、原爆の日には、広島・長崎において平和祈念(記念)式典が開催され、被爆地から世界に向けて平和宣言が読み上げられます。報道によると、長崎市の平和宣言起草委員会は、今年の平和宣言に「脱原発」は盛り込まず「将来的に安全な社会に転換するために原子力に代わる再生可能なエネルギー開発」を訴えるにとどめるそうですが、広島・長崎ともに今年の平和宣言で国のエネルギー政策の見直しを求めることになるようです。



原爆(核兵器)であろうと、原発事故での放射能であろうと放射能の危険性・恐ろしさには何ら変わりません。決して良いきっかけではないですが、福島原発事故で今年ほど日本全体が放射能への関心を持った年はなかったのではないのでしょうか。みんなが関心を持つ今こそ「No more 広島！」「No more 長崎！」「No more 福島！」と二度と被爆者を生み出さないための行動をしていきましょう。